

第5回和光市男女共同参画推進審議会からの意見概要

指標について

- ・ 全体的に目標値が低すぎる。すべて6割又は7割にあげる。条例制定後の和光市が積極的に指標を目標として達成していくという姿勢をあらわさなければならないのではないか。達成できなかったとしても、その姿勢が大事である。5年あるのだから、理解を示すだけなら7~8割でもできる。

基本目標1 男女平等を支える意識をつくる

(1) 男女の人権を尊重する意識の浸透

生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利の尊重の理念普及

- ・ 「性感染症予防に関する講座等の開催」がある。これは具体的な取り組みであって、P14の2-(3)- や の取り組みと内容が重なっている。大きな理念の普及は1-(1)- に入れて、具体的なものは2-(3)- や であげればいい。1-(1)- には、「生涯にわたる性と生殖の健康と権利の尊重の理念を普及するための講座」を入れ、「性感染症予防」については、2-(3)- 又は に調整して入れる。

メディア・リテラシーの育成

- ・ 各小中高との連携があるとよい。

(2) 性別による固定的役割分担意識の解消

男女の自立を支える技術の取得支援

- ・ 「技術の習得」の部分がいきなりスキルの話になっている。2-(2)あたりにあってもいい。意識啓発のところにあるには違うと思う。P4の「男女の自立を支える技術の取得支援」を2-(2)へ移動したらどうか。女性の起業・再就職への支援の下に持ってきたほうがいいと思う。

(その他)

- ・ 女性の働く権利に関する意識浸透を入れた方がいいと思う。

(3) 男女平等教育の推進

- ・ 女性が地域政治にもっと関心をもつような地域リーダーづくり。町内会、自治会の会長に育てるようなことがあってもいい。
- ・ 学校の部分にPTAとの連携を入れる。
- ・ 関連データの学校における男女混合名簿使用状況については全学校数(母数)を入れてもらいたい。
- ・ 地域や職場における指導者への教育の充実を入れる。

(4) あらゆる暴力の根絶

DV・セクハラ防止対策の推進、DV・セクハラ被害者への支援

- ・ 女性側のエンパワメントという視点がない。護身法やアサーショントレーニング等、被害者にも加害者にもならないための知識を身につけるべきだと思う。

基本目標2 男女がともにいきいきと暮らせる環境をつくる

(1) 子育てにおける男女共同参画の推進

- ・ 男性の自立支援として、「家事」も入れてほしい。「性別による役割意識解消のための両親学級～の活用」などにしてはどうか。意識啓発ものだけにすっきりさせたい。
- ・ 保育園の待機児童数についての施策を入れてほしい。施策 「多様な保育ニーズへの対応」の中で検討してほしい。
- ・ 保育所就業の時間を延長して24時間制にする

(2) 働く場における男女共同参画の推進

- ・ 非正規雇用の人に対する労働法令関係の周知を入れて欲しい。
- ・ 50歳代で30%、30歳代で50%と就労意向が高くなっているため、性別年齢に関係なく、就労に対する支援を入れてもらいたい。
- ・ 地域振興課を通じて、地元企業の管理職への啓発を行って欲しい。他の自治体では取り組んでいるところもある。
- ・ 「ワークシェアの啓発」を入れる。
- ・ 非正規雇用の問題を入れてほしい。あらゆる世代の正規雇用ではない人たちのための労働関係法令学習の機会と相談窓口の周知
- ・ 事業者との連携を入れてほしい。男女いきいき宣言への登録を大阪でやっている。専門家による女性活用アドバイスを盛り込んだ積極的活用に取り組む企業が33.3%から44.1%に増えた。
- ・ 企業に対してもいろいろな働き方があることの啓発を行い、全国的な実践例なども示し情報を提供する。

(3) 生涯を通じた健康支援

- ・ 再度リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点から見直す必要がある。心とからだの支援とリプロ関連支援と施策の内容を再度検討する。
- ・ リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関する相談ができる場の整備が必要。(例：思春期の子が妊娠してしまった、親にもいえないし、相談する場もない。恋人等からの性暴力。性犯罪。また、働く女性も含めて、生む生まないことに関する相談や健康支援が必要。)
- ・ 男性のホルモンのアンバランスからくる心身の不調のケアも必要。

基本目標3 男女共同参画によるまちづくりを進める

(1) 政策・方針決定の場への男女共同参画

- ・ 女性だけでなく、男性の比率が低い審議会のバランスを取ることも大切。
- ・ 和光市における職員、管理職の女性の比率を上げることについて入れる。
- ・ 関連データとして、現在の和光市の職員男女データも入れてもらいたい。
- ・ 再雇用制度を利用している男女比の均衡を図るような表現も入れてほしい。
- ・ 女性が地域、政治に関心を持つような講座があってもいいのではないかな。

- ・ 地域の事業所に管理職を増やしていく働きかけをする。
- ・ 健康祭りのときなど、もっと明確に健康のための企画にしてはどうか。健康療法・心のケアを生活習慣にするための啓発や関連団体の支援が必要。

(2) 地域における男女共同参画の推進

- ・ 高齢者のことについて入れてもらいたい。
- ・ 高齢者へのチャレンジ支援をしていくのはどうか。製作したものを販売するお店ができればいいと思う（高齢者の高い技術、ていねいな仕事ぶりを次世代へ）。
- ・ いろいろな場で活躍する男性、女性の紹介をする。
- ・ 男女で協力して素晴らしい仕事をしているグループの紹介

(3) 国際社会「平等・開発・平和」への貢献

- ・ 和光国際高等学校との連携を入れてほしい。小中だけではなくて高校も。

(4) 男女共同参画推進体制の整備

- ・ 男女共同参画課又は担当などを設置するよう整備することを入れてほしい。親元の事務局がしっかり足元を固めてもらいたい。
- ・ 各セクションとの連携、庁内への男女共同参画意識の浸透が必要。施策を担う職員がどういう施策をしなければいけないか検討することが必要。
- ・ 条例の庁内への浸透をどこかに入れてもらい、どの課も言われなくても男女共同参画の視点で施策を展開するようにしてもらいたい。
- ・ 情報紙おるご～るデータベース化
- ・ 男女共同参画推進のための拠点の整備をさらに進める。市内の関連団体への周知が必要。
- ・ 「男女共同参画推進月間」を設けて、重点的に事業を推進してはどうか。